
同窓会だより

最近の同窓会活動について

同窓会副会長 野内 昭宏

私からは、前回の歯学部ニュース以降の3つの出来事について、報告させていただきます。

◎歯学部50周年記念のお祝い金贈呈

新潟大学歯学部は昭和40年4月に、日本海側唯一の国立大学歯学部として設置されました。以来、この3月に歯学科47期生と口腔生命福祉学科10期生を含めて、約2,700名の卒業生を輩出しました。

歯学部50周年記念祝賀会は歯学部主催で平成28年7月19日（土）に行われましたが、それに先立つ7月14日（木）午後、当同窓会から前田学部長に金一封を贈呈しました。

当同窓会も、まもなく50周年を迎えます。どのような形で迎えるか、検討していきます。



前田学部長に金一封を贈呈する有松会長

◎第32回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会

この会は、全国の歯科大学歯学部同窓会・校友会の学術部門担当者が集まり、各同窓会で開催する学術研修会やセミナーの開催方法やあり方などの情報交換をして、学術事業をよりよいものにする目的で、平成9年に発足しています。当初は年2回、平成21年からは年1回の開催となっています。

今年度は共催校として明海大学歯学部同窓会にお手伝いいただき、当同窓会学術部が主管し、平成28年8月20日（土）にホテルラングウッド新潟で開催されました。長崎大学を除く27校70名の参加者がありました。

今回は「同窓会学術イベントを成功させるためには何が必要か」をメインの協議テーマとして、当同窓会学術部が企画した事例をケースプレゼンテーションし、そこから導き出されるキーワードを抽出し、学術イベント成功のための要因を参加者皆で討論しました。これは本会開催の趣旨に最もマッチしたテーマであり、大変有意義な議論ができました。

また、後半には日本歯科医学会会長住友雅人先生から「同窓会学術活動に期待すること」と題して、同窓会が学術活動をしていくにあたり参考となる話題を多数紹介していただきました。

連絡会終了後、同ホテル宴会場で懇親会が行われました。当同窓会の役員も加わり、参加者80名で開催されました。ここでも様々な情報交換が行われました。

歯科に限りませんが、医療業種に携わる者はその在職中、不断の努力・勉強を行う必要があります。しかも学部卒業後は、通常は自発的に行わなければならないし、なおかつchargeが必要です。

歯学部ニュース前号にも報告したように、関東



第32回 全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会



議長をする奥田先生



発言をする東北大の先生



住友先生の講演



懇親会（住友先生を囲んで）



信越厚生局新潟事務所との折衝により、以下の3つの事項が認定されております。

1. 当同窓会が、施設基準の認定に必要な研修を開催できる「学術団体」に該当すること
2. 平成28年度第2回の学術セミナーが、医療安全対策および「歯科外来診療環境体制加算（外来環）」対応の研修に該当すること
3. また、「在宅療養支援歯科診療所」並びに新設された「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の施設基準に関する研修のうち、緊急時対応に係る事項の研修にも該当すること

特に1. については、(1) 当同窓会員のみならず他大学卒業の方にも門戸を開いていること、(2) 当同窓会学術部が、「学術団体」に相応しい活動をしていること、(3) セミナーも、施設基準認定に必要な研修たり得る十分な内容であること等により、同窓会としては異例の認定を受けています。

当同窓会学術部では、今後も会員のニーズに合わせた講演会やセミナーを企画運営していきます。

◎歯学科6年生、口腔生命福祉学科4年生との交流会

平成28年9月9日（金）夕方に、歯学部講堂にて表記の会が行われました。昨年までは説明会後に懇親会が行われていましたが、今回はガラッと趣向を変えて説明会のみとさせていただきました。

同窓会で行っている事業や会員向けサービスを一通り説明した後、感想を聞きました。

- ・ 学生への援助支出もなされている事を聞いて、身近に感じた。→運動会（6,000円）、医歯学祭（70,000円）、SCRP（30,000円）への援助をしております。
- ・ 同窓会から支えてもらっていたことを感じた。→同窓会から既に表彰を受けたことのある学生から。
- ・ 卒業生ネームプレートに名前を載せたい。→国試がんばってください。 etc

卒業したら、良きにつけ悪きにつけ、「新潟大学歯学部の卒業生」という看板をしょって立つことになります。時には順風満帆でしょうし、時にはつまづくこともあるでしょう。しかし、全国津々浦々に「新潟大学歯学部の卒業生」がいます。同窓会（組織、同窓生、事業、サービス等）を上手く利用して、身体は離れていても心は団結していきましょう。卒業後の皆様の受け皿は「新潟大学歯学部同窓会」です。





平成28年度 新潟大学歯学部同窓会学術セミナーⅡ

リハビリテーションがめざすもの — 歯科との連携を考える — を受講して

歯学科17期生 堀 口 良 子

平成28年10月16日、本学講堂にて、新潟リハビリテーション大学の山村千絵学長のご講演がありました。

WHOによる「国際障害分類、ICIDH、1980年」「国際生活機能分類、ICF、2001年」「リハビリテーションの定義、1981年」についてのお話があり、障害を、機能・形態障害に限定せず、能力障害、社会的不利にまで拡げて定義し、障害のある人の心の中に生まれてくるプラスの心の働きに着目し、障害者を、社会的な有利さをも備えている存在であるにとらえ、プラスを増やす事で、リハビリテーションの大きな成果を上げることが出来るとしています。そしてリハビリテーションは訓練ばかりでなく、環境や社会に手を加える事も目的とし、地域社会が、リハビリテーションに関するサービスの計画と実行に関わり合わなければならないとしています。

リハビリテーションには、医学的、社会的、職業、教育、福祉分野でのアプローチがあり、歯科医師が関わるのは、それらのうち、医学的リハビリテーションで、障害の回復の場面では、言語聴覚士との連携、指示、指導が出来るほか、予防的なアプローチも行うとのことでした。

新潟リハビリテーション大学で行われている、「活動」「参加」型の、地域の高齢者の介護予防事業、使われていなかったソフトスチーム機と廃校を使った高齢者向け食品開発ほか、岩船大祭やマラソン大会でのボランティア、清掃活動、特別支援学校の運動会、小学校の総合学習への参加など、学生、教職員の皆様が、地域の高齢者ばかりでなく小学生とも交流し、いきいきと活動されている様子も見せていただき、とても感動しました。

山村先生は、第1回共通一次試験を経て本学に入学されたとのこともありました。地域でのびのびと実践、御活躍されている山村先生のご講演を聴き、後輩として誇らしく、励みになったのと同時に、自分は地域にどれだけ参加出来ているのかと反省しました。歯学部創立50年の年に、さわやかな風のようなご講演をどうもありがとうございました。

